

公開実用平成 4-52490

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 平4-52490

⑬ Int.Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成4年(1992)5月1日

A 23 F 3/40
A 47 J 31/06

A 6844-4B
A 6844-4B

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 頁)

⑮ 考案の名称 フラワーティーバッグ

⑯ 実 願 平2-95155

⑰ 出 願 平2(1990)9月11日

⑱ 考 案 者	真 弓	純 子	岐阜県大垣市浅草4-66 日本メナード化粧品株式会社生化学研究所内
⑱ 考 案 者	大 隅	和 寿	岐阜県大垣市浅草4-66 日本メナード化粧品株式会社生化学研究所内
⑱ 考 案 者	伊 藤	三 明	岐阜県大垣市浅草4-66 日本メナード化粧品株式会社生化学研究所内
⑱ 考 案 者	松 永	康 明	岐阜県大垣市浅草4-66 日本メナード化粧品株式会社生化学研究所内
⑱ 考 案 者	早 田	吉 郎	愛知県稲沢市奥田大沢町5-1 日本メナード化粧品株式会社稲沢工場内
⑲ 出 願 人	有限会社野々川商事		愛知県名古屋市中区丸の内3丁目5番24号



明 細 書

1. 考案の名称

フラワーティーバッグ

2. 実用新案登録請求の範囲

ティーバッグ内に乾燥した花と粉末茶を収納したことを特徴とするティーバッグ。

3. 考案の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本考案は、花の美しさ及び／または天然の香りを楽しむティーバッグに関するものである。

〔従来技術〕

ティーバッグは、使用方法の簡便さから、紅茶やウーロン茶をはじめ数多くのお茶に応用されている。一方、花もその有効成分を利用して、例えば菊科植物の花や紅花がお茶として用いられている。ラベンダー、ローズなどのハーブも、乾燥した花に湯を注いで香りを楽しむお茶として飲まれており、また、湯に溶かしただけで飲む粉末状のお茶も売られている。

-1- 1127

実開4- 52490



〔考案が解決しようとする問題点〕

前述したラベンダー、ローズなどの従来のハーブティーは、花の香りを楽しむことはできるが、花の美しさを視覚的に楽しむことはできなかった。また、従来の花のお茶には、天然の香りを楽しむものではなく、味の点でも問題があった。一方、粉末状のお茶は、通常のお茶としては楽しめるが、視覚的な、あるいは臭覚的な点で不十分であった。

〔問題を解決するための手段〕

本考案は、ティーバッグ内に、乾燥した花と粉末茶を収納したことを特徴とするティーバッグである。本考案で用いる花としては、桜、菊、ラベンダー、カモミール、ハマナス、ローズ、春蘭、ニオイスイミレ、ハイビスカス、キンモクセイなどが挙げられるが、好ましくは、香りを有し、かつ美しい花が適している。これらの花は、咲いた状態、あるいはつぼみの状態などで採取し、そのまま乾燥して用いることができる。

これらの花を乾燥する方法としては、風乾、凍結乾燥、シリカゲルによる乾燥、熱による乾燥な



どが挙げられるが、好ましくは、熱をかけない乾燥が適している。

本考案でいう粉末茶は、市販のものを用いることができる。本考案でいう粉末茶としては、緑茶、紅茶、ウーロン茶などの熱水抽出物を乾燥し粉末状にしたもの、顆粒状にしたもの、あるいは錠剤状にしたものなどが挙げられるが、好ましくは、お湯にすぐ溶け、お茶の風味を残した粉末茶が適している。また、その粉末茶の粒径は特に限定されないが、好ましくは、ティーバッグの隙間からこぼれ出ない程度がよい。このようにして得られた乾燥花と粉末茶を、適量ずつティーバッグ内に封入する。本考案でいうティーバッグは市販のものなどを用いることができ、大きさ、形など特に限定されないが、好ましくは透明な素材でできた物が適している。

以下に実施例を示し、本考案を更に詳しく説明するが、本考案は、これによって限定されるものではない。

[実施例 1]



ラベンダーは紫色の花穂を、ハマナスはつぼみと花びらを、カモミールは全開の白い花を用いた。これらをシリカゲルを敷いたデシケーターを用いて、室温で一週間乾燥し、材料とした。

ティーバッグ1包には、1回の飲用に適量（0.3g）の粉末茶（顆粒状紅茶）と、ラベンダーの場合は花穂2つ、ハマナスはつぼみ1つ、あるいは花びら2枚、カモミールの場合は花2つを封入した。

〔実施例2〕

ラベンダーは紫色の花穂を、ハマナスはつぼみと花びらを、カモミールは全開の白い花を用いた。これらをシリカゲルを敷いたデシケーターを用いて、室温で一週間乾燥し、材料とした。

ティーバッグ1包には、1回の飲用に適量（0.3g）の粉末茶（顆粒状ウーロン茶）と、ラベンダーの場合は花穂2つ、ハマナスはつぼみ1つ、あるいは花びら2枚、カモミールの場合は花2つを封入した。

〔実施例3〕



ローズは花びらを、ニオイスミレは全開の花を用いた。これらをシリカゲルを敷いたデシケーターを用いて、室温で一週間乾燥し、材料とした。

ティーバッグ1包には、1回の飲用に適量（0.3g）の粉末茶（顆粒状紅茶）と、ローズの場合は花びら5枚、ニオイスミレは花3つを封入した。

〔実施例4〕

ローズは花びらを、ニオイスミレは全開の花を用いた。これらを凍結乾燥し、材料とした。

ティーバッグ1包には、1回の飲用に適量（0.3g）の粉末茶（顆粒状ウーロン茶）と、ローズの場合は花びら5枚、ニオイスミレは花3つを封入した。

〔考案の効果〕

自然の姿のままで乾燥させた花と粉末茶をティーバッグに封入することにより、花の美しさ及び／または天然の香りをお茶として手軽に楽しむことができる。即ち、本考案のティーバッグをお湯に入れると粉末茶が溶け出し、一緒に封入した花が、ティーバッグを通して透けて見える



ようになり、香りも湯気と共に広がる。更に、花の成分には下に示すような薬効がある。

例) ラベンダーの花: 鎮静、殺菌、鎮咳

ハマナスの花: 疲労回復、低血圧あるいは
不眠症の緩和

カモミールの花: 強壮、消炎、かぜによる
症状の緩和

実施例 1 及び 2 のティーバッグをお湯に入れたところ、粉末茶が溶け出した後に、ティーバッグを通して、ラベンダー、ハマナスそしてカモミールの美しい花をそれぞれ見ることができ、かつ、それらの花の天然に近い香りを楽しみながら、美味なお茶を飲むことができた。

また、実施例 3 及び 4 のティーバッグも同様にして飲用したところ、ローズ及びニオイスイレの美しい花をそれぞれ見ることができ、かつ、それらの花の天然に近い香りを楽しみながら、美味なお茶を飲むことができた。

4.

図面の簡単な説明

図 1 は、本考案のティーバッグの実施例の斜



視図である。

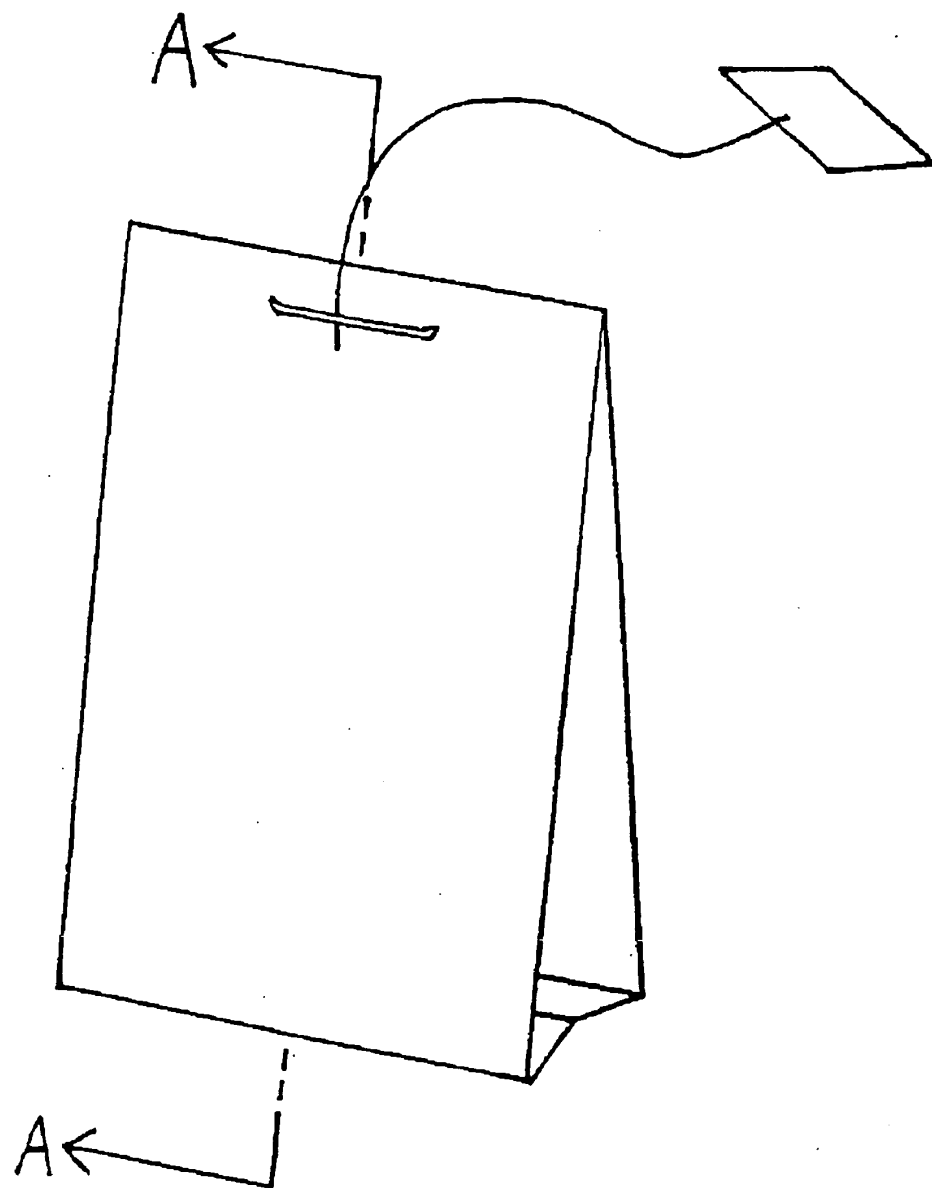
図一 2 は、その A - A 線に沿う縦断断面図である。

1: ティーバッグ 2: 粉末茶 3: 乾燥した花 4: 把持片

実用新案出願人 野々川商事



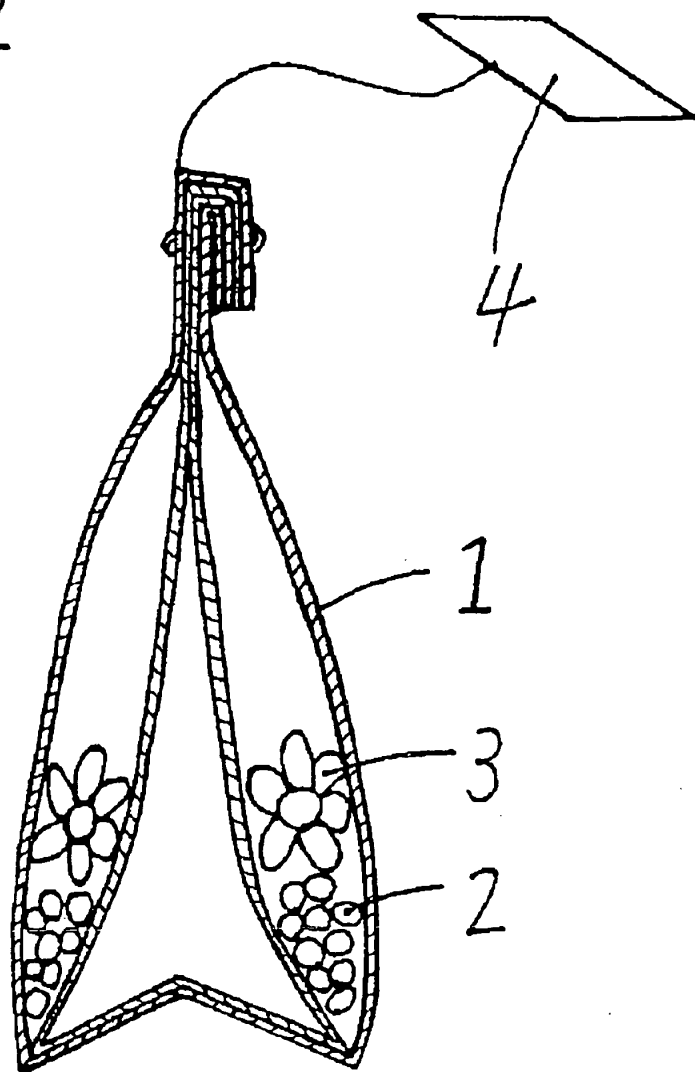
図-1



1134

実開4- 52490

図-2



実用新案出願人 野々川商事

1135

実開4- 32190

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 平4-52490

⑬ Int. Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成4年(1992)5月1日

A 23 F 3/40
A 47 J 31/06

A 6844-4B
6844-4B

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全2頁)

⑮ 考案の名称 フラワーティーバッグ

⑯ 実 願 平2-95155

⑰ 出 願 平2(1990)9月11日

⑱ 考 案 者 真 弓 純 子 岐阜県大垣市浅草4-66 日本メナード化粧品株式会社生化学研究所内

⑲ 考 案 者 大 隅 和 寿 岐阜県大垣市浅草4-66 日本メナード化粧品株式会社生化学研究所内

⑳ 考 案 者 伊 藤 三 明 岐阜県大垣市浅草4-66 日本メナード化粧品株式会社生化学研究所内

㉑ 考 案 者 松 永 康 明 岐阜県大垣市浅草4-66 日本メナード化粧品株式会社生化学研究所内

㉒ 考 案 者 早 田 吉 郎 愛知県稲沢市奥田大沢町5-1 日本メナード化粧品株式会社稲沢工場内

㉓ 出 願 人 有限会社野々川商事 愛知県名古屋市中区丸の内3丁目5番24号

㉔ 実用新案登録請求の範囲

ティーバッグ内に乾燥した花と粉末茶を収納したことを特徴とするティーバッグ。

図面の簡単な説明

図-1は、本考案のティーバッグの実施例の斜

視図である。図-2は、そのA-A線に沿う縦断断面図である。

1……ティーバッグ、2……粉末茶、3……乾燥した花、4……把持片。

